

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173501248		
法人名	特定医療法人社団千寿会		
事業所名	高齢者グループホームプラタナス三愛		
所在地	登別市中登別町141番地1		
自己評価作成日	平成28年11月21日	評価結果市町村受理日	平成29年12月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;Jigvsvocd=0173501248-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;Jigvsvocd=0173501248-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 マルシェ研究所
所在地	江別市幸町31番地9
訪問調査日	平成 28 年 12 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の基本理念をもとに、一人一人の価値観やこだわりを大事にケアし実践に繋げている。また、入居者一人ひとりのやり遂げたい事は何かを本人から話を聞くことを大切に対応を行っている。又、ホーム周辺は自然がたくさんあり春夏秋冬、四季折々の景色が楽しめ、解放感があり明るいスタッフが多く笑いの絶えない事業所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者グループホームプラタナス三愛は、多数の介護関連事業展開によって蓄積された法人の管理運営体制が家族の信頼感につながっています。さらに法人の母体となっている病院が近く、医療面でも利用者、家族、職員の三者に大きな安心感を与えています。自然景観に恵まれた場所に位置し、三角屋根の特徴ある外観で、居間兼食堂は天窓のある高い天井で明るく開放感があります。広い浴室やトイレ、玄関ホールのオープンな事務スペースなど利用しやすい共有空間とクローゼット・ベット・テレビ等が設置されている居室は利用者にとって暮らしやすい終の棲家となっています。運営推進会議には市職員と地域包括支援センター職員の2名が参加しており、施設長は市の介護関連各種委員会等の代表や委員を務め、昨年は市とともに介護人材確保のため就労促進事業に取り組みなど行政との密接な協力関係が築かれています。職員は、利用者が自立・安全・穏やかな暮らしを実現するという事業所理念とユニット目標に基づいてケアサービスを行っており、利用者や家族との人間関係が良く全体に家庭的で親しみやすさと暖かい雰囲気があります。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/> 1 毎日ある <input type="radio"/> 2 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3 たまにある <input type="radio"/> 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/> 1 ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3 たまに <input type="radio"/> 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1 大いに増えている <input type="radio"/> 2 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3 あまり増えていない <input type="radio"/> 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの役割を理解し、事業所理念を作っている。スタッフもその理念の下、実際の支援とつながるようにしている。	地域との関係を大事にしながら利用者の自立・安全・穏やかな暮らしを支援する理念と、理念に基づくユニット目標を設定しています。職員は日常業務やミーティングを通して理念や目標を確認し、ケアサービスに反映させています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の衰退により交流の機会が減少しているが、事業所としては継続的に働きかけを続けている。市内地域のイベントにも積極的に参加している。	事業所は住宅の少ない地域にあり町内会行事への参加は少ない状況です。利用者は運営法人の祭りなど諸行事や小学校の運動会見学に出かけ、地域と交流をしています。事業所の夏祭り際には地域へ呼びかけたり、法人の病院内託児所との交流も検討するなど、事業所側から地域との交流推進に努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人で認知症家族教室(福寿草の会)が定期開催されており、施設長が参加している。また、市内7か所のグループホームで組織しているグループホーム友の会では、今年笑顔の写真展を開催するなどの活動を行っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、老人クラブの会長や消防、警察、ご家族、市職員、包括職員に参加いただき事業所の取り組みなどの報告を行い、参加者から意見を頂くことができている。課題はご家族の参加が少ないことと感じている。	運営推進会議は行政関係者2名、民生委員、地域住民代表、利用者家族が参加して定期的に開催し、運営報告や意見交換をしています。しかし毎回、家族を含めて参加人数が少ない状況にあります。	家族や町内会などの地域住民の参加者増加が望まれます。今後も根気よく参加を呼びかけ、会議進行方法も研究しながら活発な会議となることを期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から施設長、管理者が市役所高齢介護グループとの連絡を密に行っている。グループホーム友の会では市役所と協働で就労促進事業を実施している。	運営推進会議に市職員や地域包括支援センター職員等行政関係者が複数参加しています。施設長は市の各種委員会等組織の代表や委員を務め、昨年から市と共に介護関係事業所の人材不足解消のための事業を展開し、事業所との緊密な協力関係が築かれています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを日ごろから実践している。今回改めてマニュアル、北海道認知症グループホーム協会が出している冊子を利用し具体的な行為や緊急やむを得ない3つの条件を再確認、理解に努めた。	身体拘束防止関連のマニュアルを整備すると共に日常業務やミーティングを通して全職員が拘束のないケアのあり方を確認し、実践しています。玄関の施錠も夜間帯のみで、玄関のセンサーや玄関ホール前にあるオープン事務スペースで利用者の出入りを把握しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の定義など、上記の冊子を利用し再確認し、虐待に繋がらないか、日ごろの自分たちのケアや関わる姿勢を改めて話し合い徹底した。学ぶ機会も定期的にある。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会、話し合う機会を設ける必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に施設長、管理者が行っている。改正があった場合には文書にて通達、説明し理解を頂くようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。 日頃から様子をご家族にお伝えし、意見や気持ちを伺えるように心がけている。	来訪の家族と職員は気軽に話し合える関係を築いており、毎月発行の家族通信にも利用者一人ひとりの様子を記載したコメントを付けています。家族からの要望等は記録や申し送りでも共有し、速やかに運営に反映させています。	事業所では現在家族アンケートを検討しています。実施を通じて家族との意思疎通促進を目指し、意見や要望等を把握する取り組みを期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長、管理者との面談が毎年行われているが、意見が反映されているかは疑問と感ずるところもある。	施設長及び管理者は、職員と日常業務やミーティングを通して意見等を聞いています。さらに年2回の個別面談を実施して個々の目標設定や目標達成状況等の話し合いを行い、事業所運営に活かすようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を採用し、個人目標を設定し各スタッフが取り組みを行っており、成果に応じ昇給に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修にはスタッフの力量を判断し参加させるようにしている。 実践の場で学ぶ機会の確保にも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	施設長はグループホーム友の会の代表も務めており、ケアカフェやイベントの開催などを通じ交流の機会を作っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面談では、ご家族から情報提供していただき確認している。入居後もご家族と密に関わるようにし信頼構築に努め、ご本人の様子をスタッフ全員でアセスメントしご本人の想いにそったケアが実践できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの想い、要望は管理者から伝達を受けたり、来訪時にこちらから声を掛けて関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定プランを作成し支援を開始している。その後の様子を見極めながらプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、させる側ではなく、お互いに生活を共にするという姿勢で、主体性のある行動ができるようにスタッフは見守っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	暮らしの場がグループホームになっても、本人を支援するご家族として関わって頂けるように努力している。不十分なところもあると思うが取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容室、買い物など、これまでの暮らしを把握し支援している。	利用者の高齢化から昔なじみの知人等の訪問は少なくなっていますが、来訪者を歓迎して気軽に過ごせるよう配慮をしています。また、馴染みの店などへの外出希望に応じて職員が付き添い支援をして関係が継続するよう努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のそれぞれの関わりを理解し、スタッフは余り介入せず見守っている。今では日常で入居者同士が助け合う姿がよく見受けられる。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	気軽に立ち寄ってもらえるよう声をかけている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の行動や言葉、表情などから、本人の望みが理解できるように関わることを大切にしている。常に本人が中心になるように検討している。	職員は、日常のケアサービスを通して利用者の思いや意向を把握するようにしています。困難な際には介護記録を確認し、家族との相談、利用者の行動の背景を考えるなどで本人中心のケアを行うようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントツールセンター方式を活用し情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族から頂いた情報や現在の状態をアセスメントツールを活用、把握しケアに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランをもとに課題やケアの方法などを話し合っている。ご家族に対してはケアプランを説明するに留まり、意見などを引き出すことができていないと感じる。	ケアプランはセンター方式を基本とし、担当職員が中心となって毎月実施のモニタリング結果を全職員によるミーティングで話し合い、プラン見直しを協議しています。見直しが必要な際は家族や、状況によっては主治医とも内容を相談し、現状に即したプランを作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別支援経過に都度記載し、ケアプランに沿った支援が実践できているか話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要と感じる支援については現場内で直ぐに対応できるように努めている。その際、情報伝達を心がけ全員が共通認識のもとで支援が実践できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントなどに参加するなど、地域の中での暮らしを楽しむことができるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望を聞き受診につなげるように努めている。	運営法人の医療機関が近くにあり、利用者の状態に応じて随時、職員付き添いで受診しています。他の医療機関受診の場合も職員が付き添っています。病状等によっては家族に連絡して同行しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護師や担当医に相談しながら、適宜、適切な対応ができるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーや病棟看護師と連絡、情報を共有しできるだけ早期の退院、安心して入院治療ができるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を確認し、話し合いを行い、事業所ですることを説明し方針を検討している。	入居時に重度化や看取りについての対応指針を説明して同意を得ています。状態変化に応じて再度、家族や主治医と相談し、重度化及び急変時の事前確認書を取り交わしています。職員はターミナルケア研修を順次受講して重度化や看取り支援に反映しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人で実施される救急救命の研修に参加している。また、急変時の対応についてはマニュアルを完備しスタッフが対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練は実施しているが、災害時の訓練については実施ができていない。	夜間想定を含めた定期避難訓練を年2回と建物内部の自主点検を毎月実施しています。各種自然災害対策も検討中で、避難訓練に運営推進会議メンバーの参加も計画中です。食料品等の備蓄品や停電時用にポータブルストーブやランタンも準備しています。	

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排せつのケアにおいては、失敗しても絶対に他者には気づかれないように配慮している。日頃の関りでも常に配慮している。	職員は法人内研修で接遇マナーを学んでおり、日常業務において施設長や管理者からのアドバイスをしています。また、ミーティング等の場で人格尊重とプライバシー保護について確認し、ケアサービスに反映しています。各種個人記録も適正に管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉や行動から意思をくみ取り尊重している。かける言葉も指示や押し付けにならないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	ひとり一人の過ごし方を尊重した支援を行っているが、できていないと感じることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る服などご本人の希望を聞きながら、自分でも身だしなみやおしゃれに気持ちが向かうように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べるだけではなく、何を食べたいかを考えるところから始めるよう工夫している。準備から片付けまでを入居者が行えるように支援している。	食事は利用者の食べたい物を把握し、調理は利用者が主体となるように支援しています。栄養バランス等は法人内管理栄養士がチェックしています。また、季節行事食、誕生日食、外食等と楽しく変化のある食事を提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとり一人の状態に応じ工夫をしている。食事、水分量ともにすぐに確認し、対応できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとり一人の状況に口腔ケアを行っている。 毎食後、口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の排せつパターンの把握、様子の変化などから誘導を行っている。トイレで排せつできるように支援している。	要介護度が低い利用者が多いためトイレでの自立排泄可能者が多数を占めています。全員の排泄パターンを把握し、利用者の様子を見極めながらさりげない声かけ等で排泄を促しています。下着類も布パンツにパッドのみの利用者も多く、利用者の状況に合わせた下着を着用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に野菜、繊維質の物を加えたり、乳製品を提供したり、軽い運動などを取り入れたり、できるだけ自然排便につながるよう工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	できる限りご本人のペースに合わせて入浴ができるように支援している。ご本人の希望に添えるようにしている。	入浴日を設定せず、利用者一人ひとりが入浴を望む時に日中の時間帯で実施しています。また夜間等に入浴希望がある時は職員の勤務時間を考慮しながら実施しています。入浴拒否がある場合は話しかけ方の工夫や家族の協力で入浴を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人の状態を把握し、生活リズムを整えたり、寝る前に安心できるように会話するなど、安眠につながるよう支援している。日中でも本人の様子を見極めながら適宜休息している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが服薬している薬を把握するよう努めている。個人のファイルに薬の情報が綴っており確認するようになっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なことなどを把握し、毎日の生活の中で活かすことができるように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の雰囲気、入居者の希望などに応じドライブや外食に出かけている。	美しい自然環境に恵まれているため、気候に合わせて桜並木など四季の風情を感じながら事業所周辺を散歩しています。さらに、車を利用して法人事務参加・小学校行事見学・外食・買い物・紅葉見学など外に出る機会を持つように努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は殆ど事業所のお預かりにて対応しているが、買い物の時などご本人がお支払いできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は事業所の電話を自由に使用することができる。手紙を書いている人はいないが、年賀状などのやり取りは行っていたこともある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じるができるよう飾りつけをしたり、行事や普段の様子を飾ったり、居心地の良い場となるように工夫している。	共有空間は清潔感があり臭気はありません。天窓のある居間兼食堂は広くて明るく、適度な季節の飾りなどで雰囲気のある居心地の良い共有空間となっています。浴室・トイレも広くて利用しやすく、外気浴を楽しむことができるベランダや非常口もあり、暮らしやすい間取りとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士自然と集えるようにリビングのソファの位置など、入居者の過ごし方に合わせ配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物の持ち込みなど入居時からご家族に働きかけ協力していただいている。	窓から四季の景観を眺望できる居室には出窓があり、鉢植え等を置き、室内には広いクローゼット・ベットと寝具・テレビとテレビ台を事業所側で設置しています。利用者は馴染みの家具類等を自由に持ち込み、のんびりと暮らしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別の状況に応じ行動しやすい工夫をしている。トイレを見つけやすくなる工夫をしたり行動しやすくなるように努めている。		